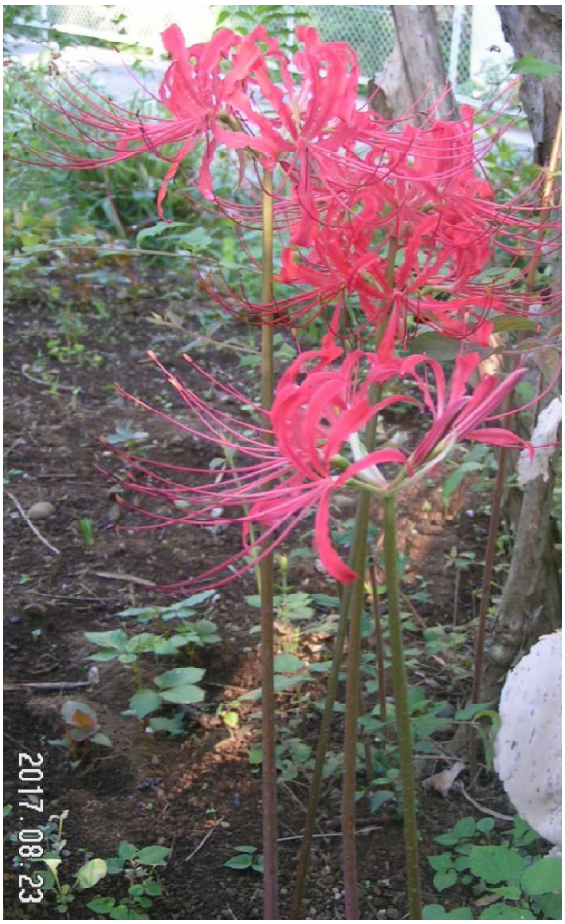
「小浜の森の秋の植物」①（平成 29 年 8 月下旬～９月編）

撮影・作成：流尾哲也

今年は夏の長雨のせいで秋が早く始まった。
まだ８月だというのにヒガンバナが満開だ。
市道の道沿いのクリのイガも大きくなっている。
（写真撮影：８月２３日）



青い種を播いて育てたノシラン（ユリ科）の苗を山桜の株もとに定植して数年で、今年初めて花が咲いた。

たった一株の親株も今年は夏の日照不足もあって花付きが良くない。（撮影：８月２３日）

マヤランの花はそろそろ終わりで、ほとんどの株は種子の入った鞘を付けている。（右）

西洋朝顔の花は小さいが、拡大してみると日本のアサガオと同じように見える。
（植栽ゾーンの北部の藪に絡まっていた。撮影：８月３０日）

野菜畑にはニラの花（左）や、こぼれ種から咲いた百日草（ジニア）も咲いていた。（右）

市道沿いのクサギの早く咲いた花の後に早くも瑠璃色の果実が見られた。

（撮影：８月３０日）

ホウチャクソウが有毒と言われるのは新芽を他の山菜と間違って食した場合で、青く熟した実は苦くて食せないが、有毒ではないようだ。

ヤブランの花は日当たりの悪い藪の中ではまだ蕾だった（左）が、日当たりの良い植栽ゾーンの株は開花していた。（写真：右）

（撮影：８月３０日）

１週間前にはまだ蕾だった自生株のノシランが開花していた。（８月３０日）

小浜の森で初めて確認された「コヤブラン」の株は匍匐しながら横に広がるので一面の群落を形成するが、ヤブランは独立株で葉の幅が広い。（撮影：９月５日、ケンポナシの木の前）

ヒヨドリジョウゴが青い果実をつけているが、まだ花も見られた。（９月５日）

サ

サキシマフヨウ（屋久島から移植）の花が９月の暑さからか例年より１か月早く開花した。朝の撮影で白い花が多く、左の半八重咲きもあるが大部分は右のような八重咲だ。（９月５）

サキシマフヨウも酔芙蓉のように午後には花弁が赤くなるものが多いが、朝（８時過ぎに撮影）から赤い花もある。（下の写真）

シロバナマンジュシャゲの蕾が伸び始めた。（９月９日）

キンモクセイの蕾が早くも膨らんでいる。（右）（９月９日）

ツルボの花は短い間しか咲かないので見逃すことが多い。葉は花が終わった後に出てくる。
（森への入口付近
撮影：９月９日）

マヤランは咲き終えて全て種子の鞘を付けている。（９月９日）

シロバナマンジュシャゲが咲きそろった。（９月１５日）花弁に淡いピンク色が混じるのもある。

ヒガンバナが８月下旬のとは別の場所で咲いた。

栗のイガ（殻斗）がはじけて実が見える。

キンモクセイが彼岸前に咲いた。（９月１５日）

サワフタギの美しい果実に気づいたかな？（同日）

（参考）森の入口で５月上旬には美しい花が咲いていた。

（大きいのがムクノキ、小さいのがエノキの実で甘い。）
食べられる木の実がたくさん落ちている。（９月２１日）

彼岸の頃にはノイバラの果実も色づき（左）、クリも本格的に熟れて落ちている。（９月２１日）

クサギの赤い苞と青い果実が美しい。（9 月 21 日）　同じ木に２度目の花の金木犀。（9 月 29 日）

キノコ２種類
名前は不明です。
（9 月 29 日）